

家庭教育支援チーム

(1)活動主体(チーム)について

①チーム名 (呼称)	鈴鹿市家庭教育支援チーム (呼称: <u>一般社団法人家庭教育研究センターFACE (ふあす)</u>) URL: <u>https://faceofficial.com</u>
②活動拠点	ラーニングルームふあせっと
③活動範囲	三重県 鈴鹿市及び近隣市町村
④組織体制	<u>11人</u> 公認心理師 1名、児童指導員 2名
⑤活動開始年度	<u>平成13年度</u>
⑥問合せ先	(部署・氏名等)依田麻理 (TEL) 090-1476-6135 (E-mail) facemail@faceofficial.com

(2)活動内容について

①活動形態 (複数チェック可能)	<input checked="" type="checkbox"/> 保護者等への学びの場の提供 <input type="checkbox"/> 保護者等への地域の居場所づくり <input type="checkbox"/> アウトリーチ型家庭教育支援(※保護者の居場所に出向いて届ける支援) <input type="checkbox"/> 自宅に届ける支援(情報提供、相談対応等) <input type="checkbox"/> 保育所・幼稚園・学校等に届ける支援(情報提供、相談対応等) <input type="checkbox"/> その他の保護者に届ける支援(情報提供、相談対応等) <input checked="" type="checkbox"/> その他(野外活動事業)
②活動対象 (複数チェック可能)	<input checked="" type="checkbox"/> 乳幼児 <input checked="" type="checkbox"/> 小学生(低学年) <input checked="" type="checkbox"/> 小学生(中学年) <input checked="" type="checkbox"/> 小学生(高学年) <input checked="" type="checkbox"/> 中学生 <input checked="" type="checkbox"/> 高校生以上 の子供を持つ保護者に対する活動を実施

【具体的な活動内容】

■アセスメント事業

検査や面談を通して課題を整理し、具体的な支援の方法を提案します。現在は公的機関からの依頼を受けて学校現場でのアセスメント及びコンサルテーションを主に実施しています。

■療育事業

読み書き能力や社会性の躓きを改善して、学校で過ごしやすくなるための療育やスキルのトレーニングを行います。



③活動内容

■野外活動事業

NEMOCLUB(ネモクラブ)

発達における感覚統合と社会性発達を促進する臨床発達の視点に基づき、意欲や自主自立性を高めるプログラムを展開しています。家族で過ごしたり、危険予知の教育や集団行動のルールなどを、遊びを通して身に着けることができます。



■社会体験事業

FNYA(スタジオ フニャ)

ふあす・ネモクラブ・ユース・アドベンチャーの頭文字から生まれた活動です。コミュニケーションのスキルや、自己探求、青年期の葛藤や自己実現にむけて、人間関係のトレーニングができます。一般就労に向けたプログラムを提供する Studio です。

■文化芸術事業

UZUME(ウズメ)

子ども達に本物の芸術に触れる機会を。演技・ダンス・絵画などの芸術活動を開催します。

■研修授業

F-SEMMI(エフゼミ)

学校教育現場の支援など実践で活躍する方や、心理検査チームを育て、現場における技量を伸ばすための研修会を行います。専門家技術養成の「プロコース」、無資格からの支援者を目指す「支援者養成コース」、保護者や一般の方のための「ペアレント・トレーニング」等、様々な講座を開催しています。



■社会貢献事業

兄弟家族のように大切に思う気持ちが「博愛」。フラテルニテ活動は不登校児童生徒や外国につながる児童を支援する社会貢献活動です。



<p>④活動の成果 (活動実績がある 場合)</p>	<p>令和2年度は、三重県障がい福祉事業所として発達障がいを主とした児童生徒の支援活動をメインに展開した。発達に関して、検査・相談・アセスメント・療育・機関連携と一貫した支援活動ができる民間機関として活動を心がけた。時悪しく、新型コロナウイルス感染拡大の影響が大きい一年であったが、子どもの発達に関する課題は先送りが看過されない緊急かつ重要な支援であることを改めて実感した。要望は多かった。そのために、WEB化や個別支援をいかに的確に迅速に展開できるかを試された。</p> <p>また同じ志を持つ団体との連携が重要であることも意識された一年であった。時期を見計らい、外国籍児童生徒や不登校事案などのマイノリティに対応する直接支援を心がけた。三重県、津市、鈴鹿市などの自治体行政機関、専門医療機関との連携する仕事が多く、機関連携が強まったと考えられる。</p> <p>不登校支援アドバイザーの任命を受け活動することにより、不登校児の居場所作りや、学校への働きかけにより、登校回数が増えた児童生徒が増えてきている。今後も国籍を問わず継続的な支援活動を行い、居場所や学びの場を提供していきたい。</p>
<p>⑤活動財源 (複数チェック可能)</p>	<p><input type="checkbox"/> 文部科学省補助事業(事業名:)</p> <p><input type="checkbox"/> 文部科学省委託事業(事業名:)</p> <p><input type="checkbox"/> 厚生労働省事業(事業名:)</p> <p><input type="checkbox"/> 地方公共団体単独事業として実施</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 特段の予算措置はない(自主的に活動を実施)</p> <p><input type="checkbox"/> その他の支援により活動を実施</p> <p>()</p>